

第35号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関・東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL: 042-626-5111

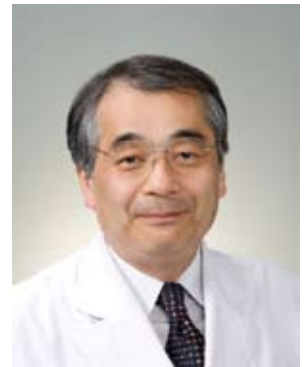
www.八王子消化器病院.com

制作 (株)教育広報社

八王子消化器病院ニュース

おおり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



八王子消化器病院
ロビーコンサート今昔物語

八王子消化器病院
理事長 鈴木 衛

平成24年も7月となり後半を迎えました。連日、新聞やテレビなど報道メディアから流れてくるニュースを聞くにつけ、社会情勢は正に混乱の一語に尽きると思われ。昨年大震災に見舞われた東北地方の方々の生活環境が徐々に回復しているとの報道には少しの安堵感を覚えるものの、大震災以降、この国全体が言葉では言い表し難い「何かおかしい？」状況にあることは皆様もお感じになられていることと思います。このような社会情勢の中、患者様、ご家族そして近隣の方々に心の安らぎを感じていただける社会貢献として当院が続けているロビーコンサートについて紹介させていただきます。

当院のロビーコンサートの歴史は、平成14年に病院を現地に移転新築した時に始まり。新病院での診療活動開始に際し、昭和58年創立時からの「患者様のための医療」の更なる推進を掲げました。地域の皆様により安心して受診いただける病院となるため、日々の診療の充実そして地域に対して開かれた病院となるべく取組みを開始しました。その一環として本ロビーコンサートを企画しました。コンサートの準備、運営は全て職員で行い、唯一お手伝いいただく演奏者は国内外で活躍をされている一流の方々を招聘することとしました。第一回のロビーコンサートは平成14年11月

に開かれ、演奏者としてシヨパンのピアノ曲を中心に日本とポーランドで活動されている江崎昌子さんにお願いしました。演奏依頼に際し、江崎さんから欧米では音楽家がボランティアとして演奏会を催すことはよくあり、ご自身も数多くボランティアを経験されてきました。病院のロビーでは初めてのことでした。初回のコンサートは150名を超える方に参加いただきました。コンサートの後半には江崎さんが目に涙を浮かべながらピアノを弾いていたことが印象的でした。演奏終了後に「大変良いコンサートを経験し、感激で涙が出ました。次回も是非、演奏をさせていただきます」とのお申し出があり、企画した職員一同もロビーコンサートを続けることを決意しました。

その後、ロビーコンサートは年6回の定期演奏会として今日も続いております。年明け1月早々には、八王子芸妓衆が新春に相応しい艶やかな踊りと唄を披露してくださいませ。桜の咲く春には新進気鋭のギタリストやセ口奏者、7月には藤原歌



劇団のソプラノ歌手家田紀子さんが華麗で楽しいステージを堪能させていただきます。9月には中秋の名月に相応しく、総勢15名による雅楽の演奏と舞を、そして秋深まる11月は前述の江崎さんが連続10回出演いただき、ピアノ演奏と曲にまつわるお話で晩秋に相応しい優雅で落ち着いた雰囲気のコ

ンサートを味わっていただいています。年末は趣向を変え、病院全職員が参加し患者様、ご家族そして近隣の方々をおもてなしするクリスマスキャロルとコンサートを行っております。12月中旬の夕刻、診療終了を待って3階4階病棟の照明を消し、ハンドベル隊のクリスマスソング演奏にあわせサンタクロース、トナカイ、天使に扮した職員がベツドサイドを訪問します。そして、キャンドルの灯し火だけを頼りにクリスマスのお祝いの言葉とプレゼント、職員からのメッセージカードを添えて患者様にお渡しします。キャンドルサービスが終ると外来ロビーにて職員によるクリスマスコンサートが始まります。ハンドベル隊の演奏、総勢30名を超える合唱団による混声4部合唱に加え、手話サークルが参加して合唱とのコラボレーション、ジャズオーケストラによる演奏が賑やかに繰り広げられます。そして、1年の診療活動を締めくくると挨拶が原田病院長からあり、クリスマスコンサートが終了します。ロビーコンサートはこの10年間で60回を超え、クリスマスキャンドルサービスは子安町の旧病院時代から30年間継続しております。今後も八王子消化器病院は消化器疾患の専門病院として、そして皆様に信頼いただける病院づくりを目指します。

もっと知りたい!

身体 治療 のコト
病気

緩和医療の実際と問題点

八王子消化器病院 外科医長

梶 理史

皆さまは緩和医療という治療をご存じでしょうか。現在、日本においては2人に1人ががんにかかり、3人に1人はがんで亡くなるといわれています。このような現状の中で、近年緩和医療が脚光を浴びるようになってきました。

緩和医療とは「がん患者となった人が抱えるあらゆる苦痛（＝全人的苦痛）を緩和すること」と定義付けられています。

各因子の相関

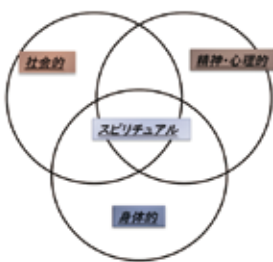


図 1

トータルペインの考え方

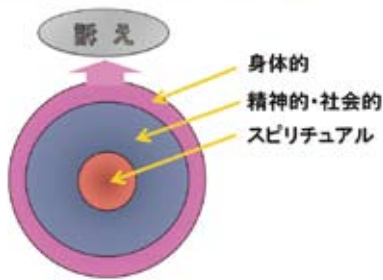


図 2

この全人的苦痛は①身体的苦痛（痛み・倦怠感など）②精神的苦痛（不安・抑うつなど）③社会的苦痛（仕事・人間関係など）④スピリチュアルペイン（人生の意味など）の4つに分類されます。がん患者の苦痛は、スピリチュアルペインを中心にして他の3つの苦痛がそれを取り巻き（図1）、そこから表出される訴えとして捉えられています（図2）。緩和医療とは、これらの苦痛をトータルで考え、苦痛を取り除く治療と言い換えることができ、どれか一つだけを解決しても全体的な解決にはなりません。皆さまは最期の時をどこで迎えたいとお考えですか？

現在の日本において、死を迎える場所は大きく分けて病院・ホスピス・自宅の3つになります。余命6カ月と宣告された方へのアンケートによると、希望する療養場所は、病院13%・ホスピス22%・自宅59%であるのに対し、時間が経過し死期が近づいてくると、希望する死亡場所は病院36%・ホスピス50%・自宅11%へ変化するという結果でした。医療機関における死亡割合の年次推移では、1950年代は病院で死亡する方は10%で一方、自宅で死亡する方が90%でしたが、2005年には病院で死亡する方が90%、自宅で死亡する方が10%と完全に逆転しています。自宅療養が実現困難である大きな理由は、介護してくれる家族に負担がかかる、症状が急変したときの対応が不安の2点であるとの調査報告があります。このような状況を踏まえ緩和ケア病棟（ホスピス）の数は年々増加傾向にあります。しかし、ホスピスの病床数は十分とは言えず、入所するには通常1〜2ヶ月の待機期間を要し、待機中に死を迎えてしまうことも少なくありません。また、病院での死亡数の増加は、病院自体の収容力を圧迫し、今後、高齢者の増加に伴い病院への入院が困難となる事態や医療費の増加などが懸念されます。現在、厚生労働省は自宅での療養・看取り、すなわち在宅医療を推進しています。在宅医療は、医療者が患者を訪問する訪問診療・訪問看護を利用することで、患者様がづらい症状を抱えて無理に病院を受診しなくてもよいといった利点があり、今後の拡充が期待されます。

しかしながら現状では大きな問題点があります。それは、患者様が余命を含む告知を受けていることが少なく、自分の希望場所で最期を迎えられるとは限らないということ。自分の治療法や今後の希望を意思表示するためには、余命を含む病気の告知が必要不可欠です。病名や余命の告知がない患者様に最期をどこで迎えるか、と質問することはできず、この質問は家族にむけられることになりすなわち、治療の選択肢があるに拘わらず、自分で意思決定をする機会が与えられないことになってしまうのです。これらのことを踏まえた上で、皆さまにお願いしたいことがあります。それは1.「死」についてご家族とよく話し合ってください。2.「死」を考えなくてはならない病気になったとき、どこまで説明を聞きたいかを常日頃から考え、ご家族と意思を共有しておいて下さい。3.「死」を迎える時に、自分はどうしたいか（延命を望むか否か、どこで最期を迎えるかなど）、ご自分の意見を明示しご家族と共有しておいて下さい。告知を受けることはショックなことです。しかし、告知を受けないことは、治療の選択肢を狭め、希望する治療法を選べなくなる危険性もあります。告知を受けるべきか否かをよく考えた上で、お決めになられてはいかがでしょうか。私ども八王子消化器病院では、2008年9月に緩和ケアチームを立ち上げ、医師・看護師・薬剤師、栄養管理士、事務員（ケースワーカー含む）といった多職種職員がチーム員として活動しております。精神科医や臨床心理士など精神的苦痛に対するエキスパートが不在であるなど活動に難渋する場面もありますが、約3年半の間に蓄積したノウハウを活かしながら、今後も患者様のお役に立てればとの意気込みで日々精進を重ねております。

健康の貯蓄

羽村市在住 野邊 耕造さん



十数年前のことです。永年の勤めを終え、やや体調を崩した折に、病院関係の知人から「多摩地域でもっとも信頼のおける病院を紹介するよ」と言われ、久野事務長に引き合わせていただいたのが八王子消化器病院とのそもそもの出会いです。

以来、今日まで定期的に胃と腸の内視鏡検査をはじめ各種の検査を行っていただいています。が、大腸のポリップを早期の段階で切除していただくなど、私にとりまして当院での検査は、正月よりも大切な「年中行事」になっていきます。

昨年には、友の会に加入させていただきましたが、内野会長を中心とした役員の皆様が積極的に活動されており、心から敬服するとともに感謝いたしております。

去る六月には、懇親一泊旅行に参加させていただきました

が、「軽井沢大賀ホール」で行われた定期演奏会では鈴木理事長が率いられるジャズオーケストラ、原田病院長がリーダーをつとめられる混声コーラス、原田病院長の奥様とお嬢様によるピアノ連弾そして友の会役員の方のピアノソロ、更には熊田さんのピアノソロ、更にはソプラノ歌手として世界で活躍されている家田紀子さんの歌など盛り沢山で心ゆくまで堪能させていただきました。

病院職員の皆様は職種も異なり、練習時間もままならないとのことでしたが、皆様の熱意と一体感が伝わってきて、思わず目頭が熱くなりました。

また、五月の友の会総会の際には、梶外科医長による「緩和医療の実践」についてのご講演を拝聴しました。患者の立場に立った緩和ケアを早期の段階からいかに行っていくかについて心を配られていることも知り、

大変心強く、当院への信頼感がより一層高まりました。

ところで、健康に関しては私なりに「健康の貯蓄」に努め、また折りにふれて「健康を貯蓄しよう！」と訴えてまいりました。

健康には、体の健康と頭の健康そして、こころの健康があるうかと存じます。

体の健康は、残念ながら年とともに減少します。それだけに、若いときに貧欲に貯蓄しておくことが大切だと思います。私自身は、柔・剣道、マラソンなどで貯蓄してきたつもりですが、今はウォーキング、ストレッチ、街道歩きなどで貯蓄の目減りを少なくするよう努めています。

当院における検診が、体の健康の貯蓄に寄与していることは言うまでもありません。

頭の健康に関しては、若いときに吸収した知識は長く保存され、その後の努力によつて利息が利息を生み、大きな財産になるものと確信しています。私は、高校時代からの日記を欠かさず付けるほか、ジャンルを問わず乱読しています。ただ最近は、新聞を読んでテレビを見ても憤りを覚えることが多く、頭の健康にはともかく、体の健康にはマイナスとして働いているよ



懇親一泊旅行「軽井沢大賀ホールにて」
上：鈴木理事長率いられるジャズオーケストラ
下：原田病院長がリーダーの混声コーラス

うです。

生きがいを見いだし、充実した生活を送るために大切なのが、こころの健康だと思います。これには貯蓄の多少はありません。充実した生活を送ってこそ「十分」であり、そのためのよき家庭、よき友、よき趣味などを持ちたいものです。

私は、若いときに手ほどきをしてくれた方がおり、川柳を趣味としています。

現在は、読売新聞の多摩川柳に出句していますが、秀逸に選ばれた二、三句を紹介させていただきます。

孫の風邪

こっちに来いと抱きしめる

帰さない

孫が築いたバリケード

三人の孫に恵まれ、日々成長

飲酒量

多いと妻が医師に告げ

妻共々、血圧の関係でクリニックに通っていますが、ある日「二度手間だから……」の妻の一言で一緒に通院するようになりました。

先生「(血圧記録ノートを見ながら)あ、安定していますね。節制してますね」

私「ハイ。飲み会でも加減しています」

妻「先生、嘘です……」

全部を聞かずに診察室を飛び出しましたが、妻の深謀遠慮に見事にしてやられました。

身に覚えがある皆様！女房の何気ない一言には要注意ですよ。

2011 年度

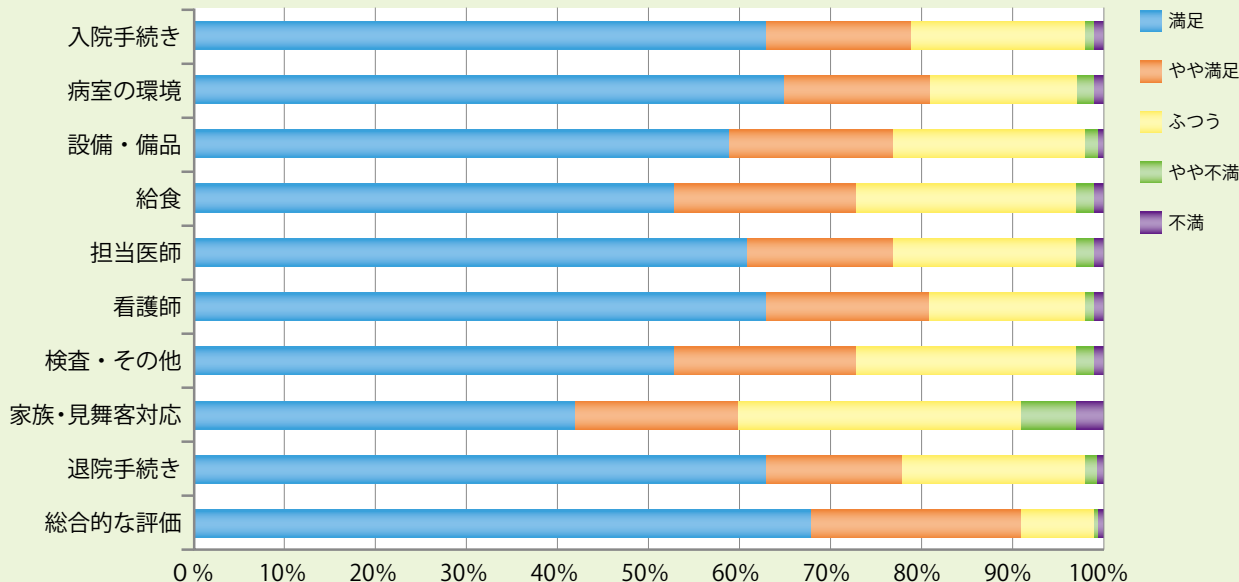
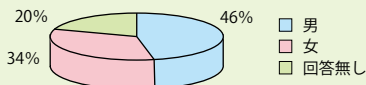
入院サービスアンケート結果

◇実施期間：2011.4.1～2012.3.31

◇回答者男女比

◇調査票配付数：4,799

◇調査票回収数：1,157



ご意見・ご要望 (抜粋)

- ・予約電話の利用時間が短くつながりにくい
- ・代表電話がつながりにくい
- ・受付カウンターの表示がわかりにくい
- ・面会手続きが煩雑で面倒
- ・駐車場が足りない
- ・職員の横柄な態度に腹が立った
- ・職員の心無い言葉に傷ついた
- ・職員の笑顔や優しい一言に癒された
- ・医師がわかりやすく十分な説明をしてくれて信頼できる
- ・院内がとても清潔で気持ちよく過ごせた

改善しました (抜粋)

- ・予約電話 → 月～金曜日 10:00～11:30・14:00～16:00
土曜日 10:00～12:00] に受付時間帯を拡充
- ・代表電話 → 回線増設および対応者増員
- ・受付カウンター → より大きく見やすい表示に改善

ご回答

- ・面会手続きが煩雑とのこと意見を多数いただいておりますが、入院患者様の安静や安全をお守りするという観点から、ご理解・ご協力をお願いいたします。
- ・駐車場につきましては、スペースや費用の問題で拡充が難しいことから、他の交通手段の確保を含めぜひご検討くださいますようお願い申し上げます。

皆様にお寄せいただいたご意見を参考に、すぐに改善出来るものから始め、調整を重ね何とか実施に至ったものなど、患者様に少しでも快適にご療養いただけるよう努力してまいりました。なかでも接客教育には力を入れ、職員全員が確かな技術に加え思いやりのこころを持って、患者様に接することができるよう心がけてまいりました。まだまだ至らない点もありますが、今後とも精進し改善に努めてまいりますのでぜひご意見ご要望をお聞かせください。なお、本アンケートの詳細につきましては、当院ホームページにてご覧ください。

貴重なご意見をお寄せいただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

病院長

想うこと



去る6月2・3日に恒例となった病院定期演奏会のため、軽井沢大賀ホールを訪れました。この時期の軽井沢は、新緑に溢れ、暑からず寒からずの素晴らしい気候は勿論のこと、5月の連休時や夏休み期間中の喧騒が嘘のように落ち着いた大人の街の顔を見せてくれます。このような第一級のリゾートである当地も、ここ数年は経済の停滞もあり訪れる人が減っていたようです。しかし、昨夏はチョットした

賑いを呈したようです。原因は、震災後の計画停電・節電により首都圏からの避暑客が増加したためと。それからすると今年は関西圏の人達が押し寄せるのでは？との地元の方の話でした。

友の会の皆様共々、楽しく過ごさせて頂いた2日間でありましたが、また何とも複雑な気持ちにさせられた2日間でもありました。

事務長 久野久夫